

第1回品川区長期基本計画策定委員会 議事概要

日時：平成20年4月3日 14:00～15:50

場所：品川区役所 議会棟6階 第1委員会室

1. 開会

2. 新委員の委嘱

3. 区長挨拶

- ・基本構想を第1回定例会に提案し、3月末に本会議で議決を得て、4月1日から施行されている。
- ・基本構想はこれから品川はかくあるべきということを示す指針である。本委員会では、この基本構想に基づき、具体的な施策を検討するものである。
- ・今後は様々な会議体を用いて、基本構想の内容を区民にPRしていきたい。また、地域から具体的な取り組みに関するアイデアをご提案いただけるのではないかと考えている。
- ・行政職員には街の声、空気、勢いに疎い面もあるため、委員の皆様には、それらを是非行政に伝えていただきたいと考えている。

4. 委員の紹介

5. 委員長挨拶

- ・区議会における基本構想の議決を受け、今年度は新たな委員を迎えることとなり、引き続き長期基本計画の策定を行うこととなった。
- ・基本構想の策定過程では、理念や考えをまとめる作業が中心となっていたため、具体的な意見が示されても、それを抽象化することが多く、委員のなかにはもどかしさを感じた方もいるかと思う。
- ・今年度の委員会では、昨年に比べ具体的な取り組みについてご議論いただくことが多くなると思う。一方で、長期の計画であり不確定要素もあることから、具体的に記述することが難しい点もあると思うが、委員には忌憚のないご意見をいただき、良い計画を策定していきたいと考えている。

6. 委員会運営について（資料5に基づき事務局より説明）

■委員

- ・委員会の公開基準について、委員長が認めた場合は非公開とあるが、具体的にはどのような場合を想定しているのか。委員長の公開／非公開の基準を教

えていただきたい。

■委員長

- ・昨年度の基本構想に関する策定委員会でも同様の公開基準が設定されていたが、実際に非公開にしたことはなかった。
- ・本委員会を非公開にすることは想定していないが、個人のプライバシーや契約等、また、地方自治法上の守秘義務に抵触する場合、非公開とすることもあり得る。
- ・その他、質疑がなければ、運営に関する点はこの内容で確定したい。

7. 品川区基本構想と長期基本計画の策定について

(資料6, 7, 8を事務局より説明)

■委員長

- ・事務局より説明いただいた資料は、今後の議論に役立てることを目的としたもので、本日の会議で、これについて議論するといったものではないということである。これについてご意見・質問があればお願いしたい。

■委員

- ・第三次長期基本計画がどのように実現されたのかということについて、現行計画の進捗を評価・総括する資料があれば良いと思う。また、今後、新計画を策定していく上で、区民のニーズや意向が分かる資料があれば、現行計画と区民ニーズが一致していたのか評価することができるため、地域課題に関する議論を行う上で弾みがつく。

■委員長

- ・委員から、現行計画に対する評価、区民意識調査に関する資料を提供していただきたいとのご指摘をいただいた。

■事務局

- ・昨年度の基本構想等策定委員会において、現行計画の評価と区民意識調査の結果をまとめた資料を配付しており、あらためて、次回それらを配付させていただくこととしたい。
- ・今年度は昼間区民を対象に調査を実施する予定である。

8. 委員懇談

■委員長

- ・委員の皆様から、自己紹介とともに、本委員会に参加するにあたってのご意見などをいただきたい。
- ・質問に関する点は、後ほど事務局からまとめて回答していただくこととしたい。

■委員

- ・原小学校の跡地利用に関する予算が組まれているが、同小学校を卒業した者として、行政には地域関係者に対する PR や説明をもっとしていただきたい。

■委員

- ・町会、自治会から参加した約 900 人の地区委員の 1 人として、地域で子育て活動に従事している。
- ・基本構想の肉付けをしていくのが長期計画の役割であると考えている。
- ・品川区は住みやすい地域であると言われているが、新長期計画を通じて、さらにその魅力を高めていければと考えている。
- ・特に子どもの育成、教育関係において、子どもが元気で明るく健やかに育つような品川区にすることを考えながら参加したい。

■委員

- ・男女それぞれの良いところを認めつつも、それを優劣とみなさず、価値は同じであるという考え方をもって、お互いの人権を尊重しあいながら暮らすことができれば良いと考えている。

■委員

- ・地域の文化振興に力添えができれば良いと思う。

■委員

- ・子どもが小学校に入学し、今年度よりすまいるスクールにお世話になることになった。
- ・子育て真っ最中であるので、子育てについて現場の声を伝えることができれば良いと思う。また、子どもを品川でどのように育てていくかということを考えていきたい。

■委員

- ・今年度もまちの人々と意見を交換しながら、偏見のない意見を述べられると良いと思う。
- ・町会の定例会で、町会に加盟していない人々に対する PR を行うという話を聞き、心強く感じている。
- ・地域におけるインターネットの活用として、地域センターが中心となり各町会の HP の作成、指導員の配置が行われることになった。今後、それらが地域のネット交番等に発展していくと期待している。

■委員

- ・子育てを行う親の立場から、現場の意見を伝えていきたい。
- ・今の子どもは生きる力が弱いと言われているが、こうした子どもたちが強く育ち、次の品川を担っていくことが品川区の発展にとって重要であると思う。
- ・子育てに関するサイトを作成し活動している。最近は子育てを行う母親が自ら活動をするようになってきており、このような力を活かすことのできる地

域であって欲しいと考えている。

■委員

- ・自民党区議団として、基本構想に対して 65 項目のパブリックコメントを提示し、19 項目を取り込んでいただき感謝している。これまでの基本構想と比べ、かなり踏み込んだ内容となっていると思う。
- ・長期基本計画を検討するなかで、実施計画でどこまでできるのかといったことについても、議論がおよぶのではないかと考えている。また、そのような議論が、住んで良かった、住み続けて良かったという品川区につながると思う。
- ・4人の子どもの父親であり子育ての真っ最中であるので、子育て分野についても議論を行っていきたい。

■委員

- ・基本構想の3つの理念、5つの都市像は非常に重要であると考えている。地域の区民の声をもとに、しっかりと議論をしていきたい。
- ・皆さんの意見を積み上げるとバラ色の計画になると思うが、地域からの要望、行政評価の結果、財政基盤とのバランスをとりつつ、今後 10 年間で取り組むことのできる長期計画にしていきたいと思う。

■委員

- ・数十年の行政運営に関する計画であるため、できるだけ地域の要望を踏まえたものとしていきたい。
- ・子育てに加え、介護も重要な論点であり、地域住民から介護に関する要望も寄せられている。区民の方の気持ちにかみ合った計画にできればと考えている。

■委員

- ・基本構想で示された3つの理念と5つの都市像を具体化させていくため、これからが腕の見せ所であると考えている。
- ・区民が区政の中心であることを実感できるような区政を実現するため、計画づくりに取り組みたいと思う。

■副区長

- ・委員がこれまで強調されていた「輝く笑顔」という点を、長期計画でも活かすことができるよう取り組んでいきたい。

■副区長

- ・基本構想等策定委員会では、各団体の委員と公募委員との議論が多くあったが、今後は事務局や事業部長との具体的な施策に関する議論も多くなると思う。そのため、本年度は委員と行政の接点としての役割を果たしていきたい。

■委員

- ・若年層からみた地域の意見を委員会に伝えていきたい。

■委員

- ・昨年1月に設立したシニアネットという団体で活動している。進展する高齢化に対して、高齢者が地域で元気に活動する場や機会を作るために設立した団体である。
- ・先週、団塊世代の地域デビューを促すというテーマで区長とのパネルディスカッションに参加させていただいた。高齢者の力を地域に活かしていきたいと考えている。
- ・資料にある八潮地区の**25**年後の人口構成をみて、足元から地域が崩れていくように感じ、何とかしなければいけないという気持ちになった。

■委員

- ・発達障害の子どもに関する活動を**10**年近く行っている。発達障害というのは非常に理解されにくい障害である。子どもたちの教育をしっかりと行なうことが、将来自立した生活ができるかどうかに大きく影響する。
- ・長期基本計画に、このような子ども達に対する教育を盛り込んでいただきたい。

■委員

- ・品川区内の会社に就職し、これまで**20**年超を区内で働いてきた。昨年の委員会では、区内に居住していないことを引け目に感じていたが、今年度は**50**万人を超える昼間区民の1人として、議論に参加したい。

■委員

- ・構想はデッサンであり、長期計画はそれに色を塗り、形を作り、区民に見えるようにする作業であると考えている。
- ・世の中は平準化され特色が失われつつあるが、品川区内を取材していると、地域に特色がみられる。例えば、地域の祭りにおいても、品川区には歴史に基づく特色が強く現れている。
- ・施策には、普遍的な施策と地域の特徴を活かすような施策があり、それぞれ地域の格差がないように区全体に行なるべき施策、また、特色を伸ばすための施策とはどうあるべきかを考えながら議論したいと思う。

■委員

- ・品川区も本格的な高齢化を迎える。**2025**年には4人に1人が高齢者になることが見込まれている。立派な施設に入所するよりも、年をとっても元気で健康でいられる社会を目指したい。
- ・運動をほとんどしていない人は、している人と比べて細胞の老化が**10**年ほど早く進行するといわれている。区民の方に生活習慣、運動習慣等、健康で長寿を楽しんでいただけるための取り組みをPRしていく必要がある。

■委員

- ・青年会議所では、小学生を対象としたわんぱく相撲や公開討論会、中学生に

対する働く意義を伝える講習会等を開催している。

- ・基本構想の理念は、迷ったときに戻るところ、迷ったときに見るものである。本委員会では、観念的な議論ではなく、具体的かつ定量的な目標をもって議論していきたい。

■委員

- ・基本構想には、都市部ではコミュニティの衰退や崩壊が指摘されているとの記述がある。商店街は自らを地域のプラットフォームとみなし、地域の伝統や文化を守り、地域の人との会話の中で発展していくことが重要であると考えている。
- ・より良い品川、住みやすい品川をつくるため、より良い商店街作りを心掛けていきたい。

■委員

- ・戦後、品川は大きく変わり、現在では高層住宅が多い地域となっている。
- ・若い人たちがこれから生きていく上で、何が豊かになれば良いかということを議論する場ができたことに感謝している。

■委員

- ・商工会議所では、中小企業を中心とした産業振興について活動を行っている。
- ・昼間区民として、品川は色々なものが混じり合っている地域である。事業所が住宅の中に立地していても、昔と違い、住環境の悪化につながるわけではなくになっている。また逆に、色々なものが混在していることが、互いに影響を与えながら高まっていくことで、街の発展に寄与していると思う。
- ・議論が聞きづらいため、できればマイクとスピーカーの質を良くしていただきたい。

■事務局

- ・原小学校の跡地利用については、パブリックコメント等を実施し、それをもとに高齢者施設、認可保育園、地域の交流拠点を作ることを計画してきた経緯がある。また、併せて地域に対するPRも実施してきたが、ご指摘を踏まえ、今後、より一層きめ細かな説明を行っていきたい。

■委員

- ・学生や新社会人等、新たに品川区に通うことになった者、また居住することになった者にとって、魅力のある品川区が作れると良いと思う。
- ・品川区には多様性があるため、具体的な議論になるほど合意が難しくなる恐れがある。地域の声を十分に把握し、議論を行っていきたい。
- ・学識委員として、皆さんの意見を聞きながら、議論しやすい雰囲気を作っていく。

■副委員長

- ・学識委員は委員の方と若干の距離を保ちながら、皆様の意見をまとめていく

役割を担っていると考えている。

- ・基本構想はどのような視点で品川区を考えていくのか示すものであり、基本計画はそれを具体化するものであるため、今年度、委員会の果たすべき役割は非常に重いと考えている。
- ・介護・福祉を専門としてきたこともあり、福祉分野について、高齢者、障害者、子育てに関する議論に参加することでも役割を果たしたいと考えている。

■委員長

- ・都庁に 30 年近く勤務したなかで、品川で最も印象に残っていることは、大井町におけるりんかい線の工事である。工事の際は地域に色々とご迷惑をおかけしたが、今では、大井町は東京で一番の交通の結節点となった。
- ・東京都は大崎を副都心とみなしてきたが、大井町の工事により、それが変化していった。
- ・品川は旧東海道以来、様々なストーリーを有する街であるが、これから将来にわたっても、東京、日本全体に様々なことを発信していければ良いと思う。
- ・委員の皆様が、生活感覚で率直なご意見を伝えることができていた昨年の委員会の雰囲気を維持し、本年度も委員会を運営していきたいと考えている。

9. 今後のスケジュールについて（資料 9 に基づき事務局より説明）

- ・次回は長期基本計画の骨子案を提示させていただき、第 3 回以降は、それをさらに深めたものを、都市像ごとにたたき台として提示させていただくことを予定している。
- ・その後、10 月中旬にパブリックコメントを実施し、12 月中旬には素案を答申していただくことを予定している。

10. 閉会

(以上)